

# 地域で暮らす豊かさ

葉が聞かれるようになった。「幸福な老い」「成功した老後」などと訳され、健康や経済的な状況、家族などの人間関係が目安とされることが多い。一人一人のサクセスフルな老いをどう可能にしたらよいのだろうか。

少子高齢化が急速に進展する中で、「若者が上の世代の老後を支える」という社会保障の仕組みが限界を迎えている。これからの時代を生き抜くキーワードは人と人の「つながり」や助け合いだ。「サクセスフルエイジング」という言

介護を受ける身となっても、住み慣れた場所で家族や友人に囲まれて暮らしたい。そんな思いに添え、いち早く地域包括ケアを実践してきた長岡市の高齢者総合ケアセンター「こぶし園」の総合施設長、小山剛さんに聞いた。

× 一どんな取り組みか

山の中にある従来型の特別養護老人ホームに入所していた100人の皆さんを、もともと住んでいた地域に徐々に帰しています。ことし3月に、全員が帰るめどが立ちました。

× 一どこに「帰す」のか

「施設の分散」と呼んでいるように、「サポートセンター」と呼ぶ地

## 長岡のケアセンター長 小山 剛さん 「こぶし園」総合施設



こやま・つよし 1955年長岡市生まれ。知的障害児施設勤務などを経て「こぶし園」に。「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」代表理事などを務める。

していたのだと思います。  
一施設にはバーカウンターやキッズスペースもあるが  
公民館のような地域みんなのためのスペースにしかかった。実際に、おじさんたちが宴会をしたり、放課後の小学生がテレビゲームをしたりしています。その代わりに施設の掃除やウッドデッキの塗り替えをして

除やウッドデッキの塗り替えをして  
き。これなら通所や訪問介護、配食などを24時間態勢で受けながら、家族や友人のそばに生活を持てます。  
一既に地域に帰った人たちの評判は？  
90代後半の男性からは「自分の部屋に同級生が来たせ」と喜ばれました。別の方は「やっと戻って来られた」と。従来型の大型施設はどうしても広域となり、住んでいた地域と切り離されてしまう。皆さん、我慢

一全国への広がりは？  
最初のサポートセンターを自腹でつくったのを見た老舗の商家さんが、「うちの土地や建物を使って」と申し出てくれた。僕らは介護というソフトを提供するだけ。お金はかからない。やる気さえあればできる

一既に地域に帰った人たちの評判は？  
90代後半の男性からは「自分の部屋に同級生が来たせ」と喜ばれました。別の方は「やっと戻って来られた」と。従来型の大型施設はどうしても広域となり、住んでいた地域と切り離されてしまう。皆さん、我慢



地域包括ケアシステム  
要介護状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、訪問医療や介護などを一体的に提供する仕組み。おおむね30分以内に必要なサービスを受けられる生活圏を単位として想定する。

地域包括ケアシステム  
要介護状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、訪問医療や介護などを一体的に提供する仕組み。おおむね30分以内に必要なサービスを受けられる生活圏を単位として想定する。

「幸福な老い」へ絆大切